

# OpenManage Enterprise 4.0 へのアップグレード

著者: Mark Maclean (PowerEdge Technical Marketing Engineering) / Manoj Malhotra (OME Product Manager)

## 概要

Dell OpenManage Enterprise は、PowerEdge サーバー用のインフラストラクチャー管理コンソールであり、フルライフサイクル管理のためのソリューションと、その他の多くの機能を提供します。OpenManage Enterprise (よくOMEと略されます) は、最初のリリース以降も開発が継続され、リリースごとに新機能が追加されてきました。旧バージョンの OME 3.x をご利用のお客様は、OME 4.0 に移行することで iDRAC 資格情報のローテーションや RSA SecurID による多要素認証など、新たな機能をご利用いただけます。

## マイグレーション ~移行~

### 概要

以前のバージョンとは異なり、OME 4.0 ではインプレース アップグレードは提供されず、既存のデータをアプライアンスの新しいインスタンスに転送します。

アップグレードは次の方法で実現されます。

1. OME 4.0 仮想アプライアンスの新しいインスタンスをデプロイする。
2. OME 3.10.x から OME 4.0 へデータを移行する。
3. OME 3.10.x 仮想アプライアンスを廃止する。

移行が必要なのは、OME 3.10.x (CentOS ベース) から OME 4.0 (SLES ベース) へのアップグレードのみです。将来のアップグレード、たとえば OME 4.0 から OME 4.1 へのアップデートでは、インプレース アップグレードをサポートする予定です。

既存の OME データ、つまり検出されたサーバーやデプロイメントテンプレート、ポリシー、ログ、認証情報などのデータは、OME に組み込まれているマイグレーション機能で移行できます。この移行ウィザードはステップ ベースで、OME 3.10.x アプライアンスからデータをエクスポートし、新しい OME 4.0 アプライアンスにインポートします。移行に先立ち、OME 4.0 のインストール、新しい IP アドレスと管理者アカウントの設定が必要です。また、既存の OME 3.10.x インスタンスと新しい OME 4.0 インスタンスが、ネットワーク経由で相互に通信できる必要があります。



図1 OME 4.0への移行に関する複数のパターン

この移行機能は、OME 3.10.x から OME 4.0 の移行時にのみサポートされる機能です。それ以前のバージョンをお使いのお客様は、OME 4.0 に移行する前に、インプレース・アップグレードを適用して OME 3.10.x に到達する必要があります (図1ご参照)。

## イネーブルメント

OME 4.0 は、以前のバージョンと同じく仮想アプライアンスとして提供されます。仮想アプライアンスは、VMware、Microsoft Hyper-V、KVM 向けの3つの形式で提供されています。稼働を開始すると、OME アプライアンスはすべての Dell PowerEdge ホストをOS に関係なく管理できます。アプライアンスの3つのバージョンは、いずれも Dell サポート サイトでダウンロードできます。仮想アプライアンスの詳細なインストール手順は、OME ユーザー ガイドの第 2 章に記載されています。当ドキュメントの最下部の OME サポートページへのリンクをご参照ください。移行作業は、重要なアラートを見落とすリスクを最小化するためにも、メンテナンスウィンドウ期間または閑散期に実行する必要があります。

新しい OpenManage Enterprise v4.0 仮想アプライアンスをインストール後、基本設定を適用すると移行が始まります。図 2 に論理的な手順を示します。既存のソース ホストから開始する場合、OME バージョン 3.10.x である必要があります。移行作業を監督する管理者は、バックアップ/復元メニューにアクセスするためのローカル管理者/バックアップ管理者権限が必要です。移行ウィザードは、ドロップダウンのバックアップ/復元メニューから開始できます。この手順には、安全なアクセスのためのデフォルトの Dell 証明書またはお客様ご提供の証明書を使用した SSL 証明書の一致確認、および新しい OME 4.0 仮想アプライアンスへのネットワークアクセスの確認、バックアップデータを保護するためのパズルフレーズの指定、移行以外のタスクの完了または停止の確認が含まれます。バックアップ暗号化のパズルフレーズは、最低8文字が必要です。コンマやピリオドといった特定の文字と、その他いくつかの特殊文字はサポートされていません。移行プロセスが終了すると、OME 3.10.x アプライアンスが自動的に「メンテナンス・モード保留」ステータスに移行します。

**注:** お客様提供の証明書の場合は、発行元 CA からのクライアント認証とサーバー認証が必要です。

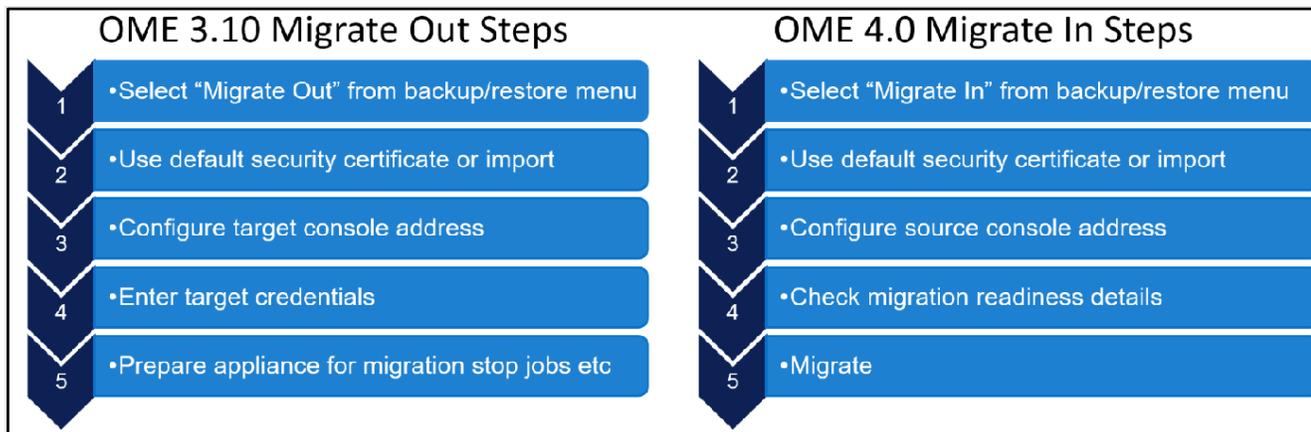


図2 OME のハイレベルなマイグレーション手順

その後、新しい OME 4.0 アプライアンスでの、管理者の最初の OME ログイン時に、初回のオンボーディングウィザードが自動的に始まります。このタスクは移行ツールに組み込まれた自動化機能が処理するため、プラグイン等をインストールする必要もありません。このオンボーディング ウィザードの一部として、移行機能を選択して実行することができます。

**注:** この移行機能は、必要に応じて、最初のウィザードの完了後、ドロップダウンのバックアップ/復元メニューから実行することもできます。(図3ご参照)。



図3. 初回の OME オンボード ウィザード – 移行手順

データをインポートする「マイグレーション イン」の手順は以下のとおりです。指定された IP アドレスと資格情報を介して通信が確立されると、移行エンジンが自動的にプラグインのステータスとアプライアンスのステータスをチェックします。すべての準備が整ったら、「マイグレーション アウト」時に使用したバックアップ パスフレーズを再入力し、インポートボタンから「マイグレーション イン」タスクを開始します（図4ご参照）。

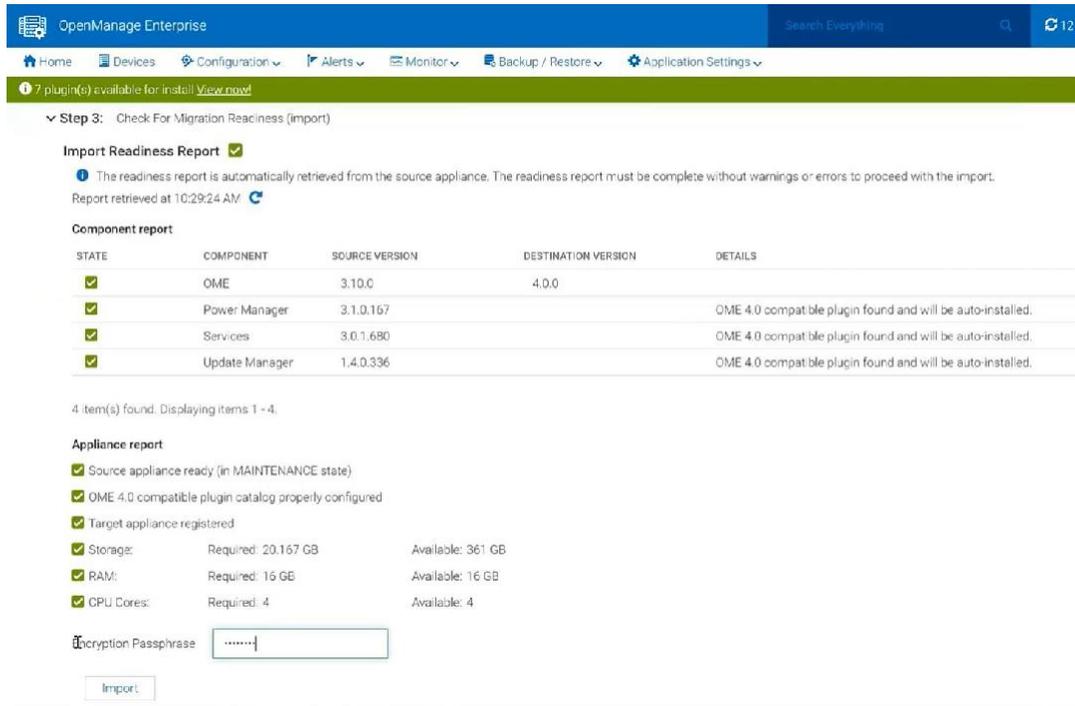


図4 インポート手順を示すウィザードでの移行

このウィザードには、移行の状況と、実行時・完了時の様々な手順が表示されます（図5ご参照）。一連の手順は移行ログに記録され、移行後にも確認できます。OME 3.10 アプライアンスの IP アドレスは移行されないため、OME 4.0 アプライアンスは移行の成功後に、SNMP が有効化されているすべての既知の iDRAC に対し、新しい管理コンソールの詳細 IP を SNMP トラップの宛先に設定するタスクを実行します。



図5 移行の成功を示すログ

必要に応じて、管理者はウィザードの [移行のキャンセル] ハイパーリンクを使用して、移行元で移行をキャンセルできます。これにより、ソース アプライアンスはメンテナンス モードから作業モードに戻ります。

移行が正常に終了すると、移行元アプライアンスが自動的に [運用停止準備完了] ステータスになります。ログイン GUI の色がワインレッド色に変わり、テキストはアプライアンスが廃止されたことを警告する内容に変更されます。

**注:** コンソールにログインできるのは管理者のみです。

ダッシュボードの代わりに、アプライアンスを廃止する準備ができたことを宣言するメッセージが表示されます。この時点で管理者に推奨されるアクションは、仮想アプライアンスの電源をオフにして、アーカイブすることです。ここでアプライアンスを実行状態に戻すことも可能ではありますが、きわめて推奨できない行為です。(図 6 参照)。最後に、移行後に新たに稼働開始した OME 4.0 アプライアンスは、先にバックアップを作成したうえで、それ以降の操作を行うことを推奨します。

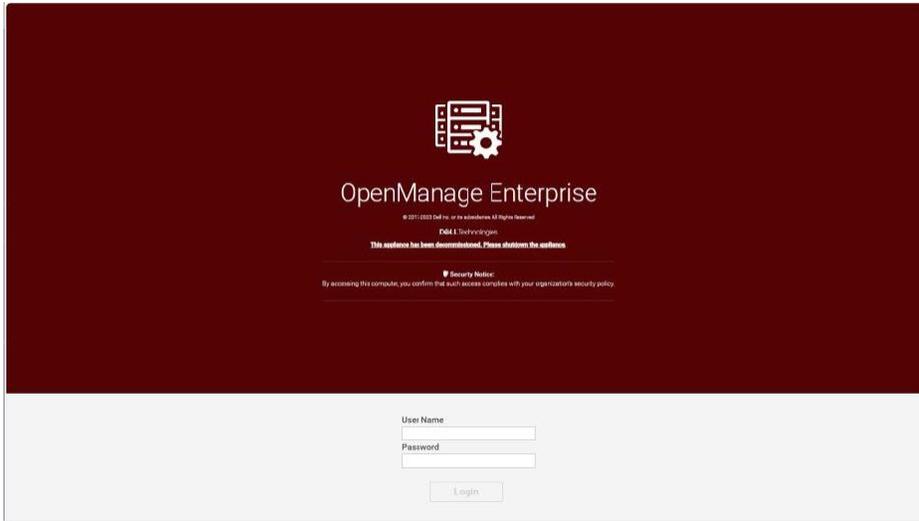


図6 廃止された後の OME 3.10.x のログイン画面の例

マイグレーションでは、アプリケーション設定、デバイス インベントリ、プラグイン データなどのデータが移行されます。例えば、サーバー管理トラフィックの継続的な移動を保証するため、OME CloudIQ プラグインが使用するサイト ID の詳細が移行されます。また、OME PowerManager が保持する過去の電力履歴データも移行されます。なお、一度にサポートされるバックアップ、復元、および移行プロセスは 1 つだけです。一度に複数のバックアップ/復元プロセスを実行すると、予期しないシステム挙動が発生する可能性があります。

表1 移行ジョブ中に考慮されるデータ

項目	詳細
データベース	<ul style="list-style-type: none"> <li>検出されたデバイスと、そのデバイスに関連するすべてのテンプレート、プロファイル、ファームウェア構成のコンプライアンス情報。</li> <li>構成情報 (テンプレート、プロファイル、ファームウェア構成コンプライアンスなど)。</li> <li>ジョブ履歴と監査ログ</li> <li>アプリケーション設定</li> </ul>
構成ファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>証明書ストア</li> <li>Samba 共有ファイル</li> <li>多要素認証ファイル</li> <li>暗号化に使用されるアプライアンスのキーストア</li> <li>Web サーバー構成ファイル</li> <li>メモリ、CPU、ストレージ、デバイス数などのソースアプライアンス情報</li> </ul>
プラグインの自動インストール	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソースホストにインストールされたプラグインの詳細がキャプチャされ、リストア操作中にターゲットアプライアンスに自動的にインストールされます。</li> </ul>
プラグインデータのリストア	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラグイン関連の構成ファイルとデータは、ターゲットアプライアンスに復元されます。</li> </ul>

## 結論

組み込み済みのマイグレーション機能を使用することで、素早く簡単に OME 4.0 へアップグレードができます。移行前のチェック機構と自動データストリーミングが統合されたステップベースのウィザードを利用できるため、移行作業は簡単で手間はかかりません。詳細については『OpenManage Enterprise 4.0 ユーザーズガイド』の第18章を参照してください。

## 参考情報

- OpenManage Enterprise 移行ビデオ : [https://youtu.be/uckcVlKr3xo?si=ZuMgsm\\_XHgZJgzsv](https://youtu.be/uckcVlKr3xo?si=ZuMgsm_XHgZJgzsv)
- OpenManage Enterprise ホワイトペーパー / ビデオ / 各種リンク [Support page](#)
- OpenManage Enterprise ドキュメント [User Guide, API Guide and support matrix etc](#)
- OpenManage Enterprise API [Dell Technologies Developer](#)
- OpenManage Ansible Modules and example APIスクリプト [GitHub Dell OpenManage Ansible Modules](#)
- Dell System Management Info Hub [Tech notes, videos, infographics](#)



For more info,  
visit the [Servers  
Info Hub](#)



[Contact us](#) for  
feedback and  
requests



Follow us for  
PowerEdge  
news